

5 アジアでの災害被害調査活動

5-1 インドネシア・ジャワ中部地震被害調査

アジア防災センター (ADRC) および国際復興支援プラットフォーム (IRP) 事務局は、インドネシア・ジャワ西部地震を受けて、緊急調査団を派遣し、5月30日から6月4日の6日間、インドネシア共和国首都ジャカルタ及びジョグジャカルタ州に於いて地震直後の被災地の状況把握及びニーズ調査等を実施しました。

ジャカルタでは、インドネシア政府国家災害管理調整局 (BAKORNAS) のトリウトモ課長に面会しました。政府は、復興計画策定のための被害調査やニーズ調査を開始しているとのことでした。ADRC は、被災地の復興に協力する申し入れをすると共に、BAKORNAS の体制整備に対する支援について確認しました。

ジョグジャカルタ州では、被害が大きかったとされるジョグジャカルタ市の南方バントゥル県を中心に、村民へのインタビューや関係機関訪問を含め被災状況の現地調査を実施しました。

今回の地震では、主要インフラの損傷は小さく、今回動いたオパック断層から離れていた市内中心部は、所々虫食い状に倒壊家屋は存在するものの、ほぼ通常の生活が営まれていました。これに対し、オパック断層沿いに点在している農村部では、木造及びレンガ造りの住宅のほとんど (9割以上に達する村落もあり) が倒壊していました。被災後間がないことから食料や医療品等の物資ニーズが大きく、また早急な住宅再建を求める声も多く聞かれました。

現地の報道によると、政府は6月6日までに捜索救助活動を終了させ、その後1週間を復旧 (リハビリテーション) にあて、その後は住宅再建を含めた復興 (リコンストラクション) を行う計画とのことでした。

今後 ADRC および IRP は、JICA などが実施する詳細な現地調査を通じて、その他各分野の専門家に対する情報提供を行うと共に、BAKORNAS の要請があれば、地方政府や地域住民に対するセミナーへの人材派遣、実施協力等を行います。

調査の詳細情報は以下の通りです。

- (1) 発生日時：2006年5月28日11時50分 (現地ジャカルタ時間、9時50分)
- (2) 発生箇所：インドネシア・ジャワ島中部のジョクジャカルタ付近
- (3) 発生日時：2006年5月27日5時54分 (日本時間同7時54分)
- (4) 地震の規模：マグニチュード (M) 6・3
- (5) 震源地等：震源はジョクジャカルタ特別州の州都、ジョクジャカルタ南方約二五キロで、震源の深さは約一〇キロ (米地質調査所調べ)。

(6) 被害状況 (AP 通信経由、政府当局発表、5月28日3時)

死者が三千六十八人。負傷者も一万二千五百人以上に上っているほか、約二十万人が被災したもよう。まだ多数の住民らが倒壊した建物の下敷きになっているとみられ、犠牲者が増える恐れがある。インフラの被害については、ビルは倒壊していない。空港、鉄道も復旧しており、電力、通信も復旧している。要するに、全般的には、主要インフラの損傷は軽度であり、被害は、レンガ造りの住宅に住んでいた人に特化している。

(7) 考察

調査員を比較的早い次期に送り、災害救援段階からの現地での活動を調査した。地震の規模 (M 6.3) のわりに多くの犠牲者が出たのは、そのほとんどが倒壊家屋の下敷きになったためである。倒壊家屋のほとんどが鉄筋コンクリートの骨組みと日干し煉瓦の壁という構造であった。骨組みの鉄筋コンクリートも鉄筋が細く、量も少なく、接続部分のラッピングも不十分、配力筋も不足していた。コンクリートも爪で擦るとぼろぼろとはがれる程度の強度しかないものもあった。また、日干し煉瓦の壁は構造的に弱く、倒壊しやすい上に、倒壊するとその重量があるため非常に危険である。これらの家屋は、住民たちが自分達の手で造ったもので、専門的知識がなかったと考えられる。

